共生委員会ニュース

ともしび

2023 年度　第 3 号

2023 年 12 月

共生探究学習委員会



2022　年度代表論文発表会の様子

平和共生論文クラス代表者紹介

今年度もクラスの中で特に優れた論文が「クラス代表論文」に選出されました。今後は
『平和共生論文集』への全文掲載や下級生に向けた「論文発表会」にむけて動いていきます。
代表生徒と論文題目は以下の通りです。

HR301 K.H.
「ファストファッション価格の裏に潜む問題　　－全ての SDGs に関わる産業との向き合い方－」

HR302 S.H.
「多様性を尊重しあえる社会を作るために　－ハリウッド映画にみる多様性表現－」

HR303 W.M.
「〝死ぬ権利〞　はだれのもの？ ～日本は安楽死を法制化すべきか～」

HR304 O.H.
「家族愛という束縛 －在宅終末医療からみる人の生の綴じ方－」

HR305 K.A.
「海洋中の　CO_2濃度増加における海洋生態系への影響」

HR306 U.A.
「識字率から読み解く教育格差 ～生まれた場所で人生は決まってしまうのか～」

HR307 A.M.
「持続可能な企業戦略 －Z 世代のSDGs と消費に対する意識－」

HR308 M.A.
「途上国の子どもたちの現状 －本当に必要な支援とは－」

HR309 H.D.
「未来の情報社会と忍び寄る影 ～情報格差からみる未来と我々が未来を迎えるには～」

HR310 U.A.
「軽微な発達障害児への支援の在り方 －支援を受けられない子供たち－」

東ティモールスタディツアー渡航記

2年 S.A.

東ティモールスタディツアーは今年、4 泊 6 日で東ティモールを訪問しました。成田空港から東ティモールへは直行便がなく、バリ島を経由して東ティモールの首都ディリに着きました。

ディリから車で 3 時間ほどかけて山道を登り、農村部のレテフォホへ向かいました。標高 1450m を超えるレテフォホ へ向かう道のりは整備されていない険しいものでした。車酔いをしてしまうだけでなく、常に車の何処かに捕まっていたくらい大きく揺れました。現地では 1 日かけてコーヒー生産者である農家に密着しました。以前から東ティモールで農家の支援を続けている NGO 団体のピースウィンズ・ジャパンは、コーヒーに対して妥協せずに厳しく、そして根気強く寄り添い、農家と購入先との対等な関係を築いてきました。品質向上と交渉力により、不利な立場を強いられていた状況から改善し、今では農家の生活がより良くなっているようです。東ティモールでは失業率が高い割に治安が良く、ホームレスもマンホールチルドレンもほとんどいません。それは、東ティモールでは人間関係がすごく大切にされていて、お互いに助け合う社会が根付いているからだと思います。レテフォホで近所の子どもたちと折り紙を作って一 緒に遊びました。折り紙が上手に折れたときの子どもたちの眩しい笑顔は今でも忘れません。そして、子どもたちは 私達が車でディリに帰るときにも最後までお見送りしてくれてとても嬉しかったです。

東ティモールは赤道の少し南に位置し、概して日中の気温が高いのに対して、レテフォホは標高が高いため、夜は冬用パジャマにダウンに寝袋に毛布までかけるほど肌寒く、広い空には星が輝き、流れ星がいくつも見えました。23 時頃、外で音楽が大音量で流れているのが聞こえてきました。レテフォホでは家と家の間隔が広いこともあり、自由に音楽を大音量で流すことが多いと知りました。その日は夜中の 1 時まで音楽が流れていました。私は昼間見た純粋に音楽を楽しんでいる彼らの無垢な笑顔を思い出しながら眠りについていました。ディリではタイスマーケットでお土産を買ったり、ピースウィンズ・ジャパンのカフェを訪問しました。

今回のスタディツアーを通して、東ティモールのもつ社会の良さや幸せの価値観に違があることを改めて知りました。その上で、彼らの選択肢の少なさ、つまり、教育の重要性を重く受け止めました。なにか「してあげよう」という一方的な「支援する」ことが必ずしも正しいとは言えず、東ティモールの人々の価値観に最大限寄り添い、「本当に意味のある支援」を考えていきたいです。東ティモールの人々が この先もずっと笑顔でいてほしいと思います。





ケルビンさんからの手紙

3 年 T.A.

みなさんは、日頃捧げている献金が何のために使われているか知っていますか？青山学院高等部では、献金(主にクリスマス献金)でフィリピンにいる支援が必要な 3 人の子どもたちを支援しています。

フィリピンプロジェクトでは、支援チャイルドの存在をより知ってもらうために、チャイルド宛にメッセージを集めるイベントを 3 回開催してきました。昨年度 2 月に開催した時は、高等部の支援チャイルドのひとりであるケルビン(あだ名はボック)君宛てにメッセージを書きました。メッセージはボックくんに届き、嬉しいことに、高等部宛にお返事(右写真)が送られてきたので紹介します。

今年度の 1 学期の手紙イベントや文化祭でも多くの人がメッセージを書いてくださいました。ご協力ありがとうございます。手紙のやりとりを通して、支援チャイルドに喜んでもらうことはもちろん、高等部生にもチャイルドを身近に感じてもらえれば嬉しいと思っています。

〈日本語訳〉

親愛なるスポンサーへ

青山学院高等部の生徒のみなさん、お元気ですか。みなさんの名前が書かれたカードと手紙が届いて、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。僕の家族もとても感謝しています。青山学院高等部のたくさんの生徒が、僕が学校に行くのを応援してくれていると知って、とても幸せです。カードに書かれているみなさん一人ひとりの名前を見ると嬉しくなります。フィリピンにいる僕を支援してくれているすべての人に感謝しています。

桜について教えてくれてありがとうございます*。僕は桜を写真でしか見たことがありません。日本人はこの綺麗な花の鑑賞を楽しんでいるそうですね。

僕たちは対面授業を続けています。コロナのワクチンも打ちました。コロナのパンデミックは僕たちの日常を大きく変えました。地球温暖化にも直面しているというのは悲しいことです。もっと植物が植えられるべきだと思います。

すべての国の平和と愛のためにお祈りします。もう一度、ありがとうございます。

支援チャイルド　ケルビン（Kelvin）

***高等部から手紙を送ったのは 3 月だったので、日本の桜の柄の手紙を同封しました。**



ケルビンさん プロフィール

15 歳

在住：フィリピン中部 ビサヤ諸島 西ネグロス島

好きな科目：フィリピノ語

家のお手伝い：皿洗い、薪集め、草木の水やり

Mother Rita Barcelo Community Center
Kelvin
P00051

My dear Sponsors,

How are you My dear Sponsors, Aoyamagakuin High School Students. I really appreciate the autograph Cards and letter that you sent me My dear Sponsors. Thank you so much for it. My Family is very grateful to you. We are very happy that many students in Aoyamagakuin High School are Supporting my Studies. I am happy to see their names in their autographs. I am grateful to all of you. who really help me here in the Philippines.

Thank you for sharing me about Chevry blossoms. I only see Cherry blossoms in the picture. I Know that people in Japan enjoy to see this beautiful flower.

We continue our face to face classes. I am now Vaccinated to protect my Self from CoronaVirus. The pandemic cause many changes in our day to day activities. We are sad that we are facing global Warming. We need to plant more trees.

We Will always pray for Peace and love to all nations. Once again thank you.

Your Sponsored Child

Kelvin

